

平成29年度

登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

九州ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 建設技能労働者のうち、登録基幹技能者の目標像に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 将来展望
2. 若年者入職
3. 適正な評価
4. 体質改善

問題 2 登録左官基幹技能者のメリットに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 社内での昇格の速さ
2. 総合評価落札方式での評価
3. 建設企業の「優良技能者認定」
4. 経営事項審査での加点評価

問題 3 左官の労働領域に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 町丁場（まちちょうば）：木造住宅や神社仏閣を手掛ける日本古来の左官の労働領域であり町場（まちば）ともいう。
2. 野丁場（のちょうば）：主としてゼネコンのもとで専門工事業者として左官工事を行い、マンション・ビルディング・大型商業施設などを手掛ける労働領域。
3. 半野丁場（はんのちょうば）：2階建てまでのCB造の建築物の左官工事を主とした労働領域。
4. 丁場：夫役で、建設工事における受け持ち区域・工区・持ち場のこと。

問題 4 職種ごとに技能者のレベルを4段階に分類したのに関して、最も不適当なものはどれか。

1. レベル1 見習い技能者（0～3年）
2. レベル2 中級技能者（4年～10年）
3. レベル3 職長（5～15年）
4. レベル4 登録基幹技能者（20年以上）

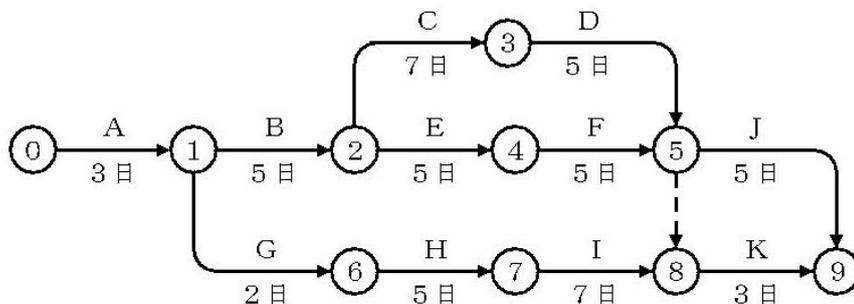
問題5 登録基幹技能者に必要な資質に関して、最も不適当なものはどれか。

1. リーダーとして大切なことは「信頼」だが、その信頼は約束を守るところから得られる。
2. 今どきの若者は、多くの理屈を言い立てるよりも、ただ見て学ばせることだけが最も重要であり、人は後からついてくるものだ。
3. 仕事に信念を持ち、決断力を養ってこそ人はついてくるものであり、決断力の強い人は、難局を避けずに必ず立ち向かって勝利する。
4. 人を率いるには、人間愛に勝るものはなく、情けがなくては人はついてこないが、厳しさの中でも暖かい配慮こそが肝要である。

問題6 指導で部下の能力等を向上させる自己啓発に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 部下の自己啓発の意欲を促すこと
2. 部下の成長する条件を考える
3. 知識の習得と体験は別々に指導すること
4. 実施可能な指導方法であること

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. クリティカルパスは、A→B→C→D→Jである。
2. この現場の工期は、25日である。
3. 3→5の作業の最早開始時刻(EST)は15日である。
4. 作業⑤→⑧の点矢線は、ダミーであり作業日数は1日である。

問題8 建設業法における「元請負人が、元請負人と下請負人の責任および費用負担を明確にしないままやり直し工事を下請負人に行わせ、その費用を一方的に下請負人に負担させた場合」の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. やり直し工事を下請負人に依頼する場合は、やり直し工事が下請負人の責めに帰すべき場合を除き、その費用は元請負人が負担することが必要である。
2. 下請負人の責めに帰さないやり直し工事を下請負人に依頼する場合は、契約変更の必要がない。
3. 下請負人の一方的な費用負担は、建設業法に違反するおそれがある。
4. 下請負人の責めに帰すべき理由がある場合とは、下請負人の施工が契約書面に明示された内容と異なる場合または下請負人の施工に瑕疵等がある場合のことである。

問題9 建設業法における専門工事業の許可のある29業種に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 鉄筋工事
2. とび工事
3. 塗装工事
4. 塗り床工事

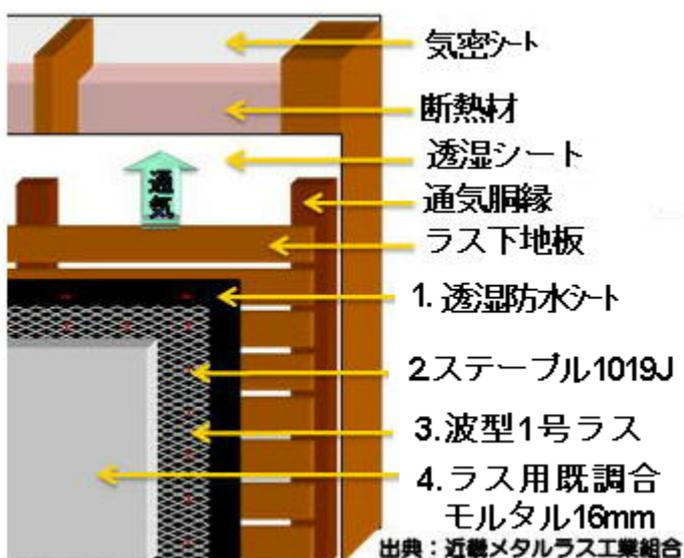
問題10 ブレーンストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BSは、5～7人程度の少人数の集団で、ある人の意見やアイデアに関して他の人たちが連鎖反応を示し、多彩・豊富・独創的な考え方を引き出す働きがある。
2. BSのルールでは、他人の意見を批判しない、量を出すことが優先されることから、安心して誰もが自由にアイデアを述べることができる。
3. BSのメンバーは、専門家、他分野の専門家、ゼネラリスト等で構成することが望ましい。
4. BSにおけるアイデアや意見に関する連鎖反応は、チーム全体の辛さや妬みを生み出すことにつながっている。

問題 1 1 左官工事に要求される品質管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 仕上面の状態（色調平滑度または粗面度）が全壁面に関して一様であること。
2. 所要の厚さは極力大きくする。
3. 必要な強度と適当な表面硬度（軟らかすぎることはもちろん、極端に硬すぎるのも困ることがある）を有すること。
4. 設計上要求される耐火、防水、遮音、吸音、断熱、湿温調節などの性能を備えていること。

問題 1 2 二層下地通気構法を示す図で、最も不適当なものはどれか。



1. 透湿防水シート
2. ステープル 1019J
3. 波型 1 号ラス
4. 既調合モルタル 16^{ミリ}

問題 1 3 左官に関する記載で、最も不適当なものはどれか。

1. 左官工事は、可塑性のある材料を現場において使用し、所定の場所に必要な厚さに塗り、あるいは吹付ける工法のことである。
2. 塗り壁の特徴と性能として、複雑な形状は限定されてしまう
3. 左官工事の目的は、美観の付与や防水または漏水防止がある。
4. 塗り壁の特徴と性能とし、理論上でも広い面積では、継目ができてしまう。

問題 1 4 塗り壁の故障の原因、内容、是正措置とそれぞれの組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか

1. 下地の吸水が大きいときは、吸水調整材を原液にして下地に塗布する。
2. 上塗り富調合は、ひび割れや剥離を発生させるので、下塗りほど富調合にする。
3. 硫化物を含む砂は、変色を発生しやすくするので、取り替える処理が必要である。
4. エフロレッセンスは、しみ・はく離を発生するので、除去することが必要である。

問題 1 5 仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせで、最も不適当なものはどれか。

	仕上塗材の種類	呼び名
1.	内装セメント系薄付け仕上塗材	内装薄塗材C
2.	内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材	内装薄塗材L
3.	内装せっこう系厚付け仕上塗材	内装薄塗材G
4.	内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材	内装薄塗材E

問題 1 6 ALC パネルに関して、最も不適当なものはどれか。

1. ALC パネルの接合部のそり、目違いならびに充填用セメントモルタルのはみ出しなどは、ALC パネルを損傷しないように適切な方法で取り除き、左官塗りに支障のないようにしておく。
2. コンクリートに比べ吸水性が大きいので断面の欠損部は、現場調合モルタルで厚手に左官塗りを行う。
3. ALC パネル下地は、工場でオートクレイブ（高温・高圧養生）した超軽量コンクリートパネルである。
4. ALC パネル相互の接合部には、パネル取付け構法に応じた所定の位置に伸縮目地を設ける。また、出入隅部、他部材との取合い部にも伸縮目地を設ける。

問題 17 コンクリート表面の処理方法に関して、最も不適当なものはどれか。

枝番	処理方法	適用目的	概要	留意点
1.	高圧水洗浄	目粗し、脆弱層の除去	高圧水洗いの吐出圧力50～150N/mm ² 、吐出圧と運行速度は、コンクリート強度などによる。	必要な粗さを設定でき、作業者によるばらつきが少なく、施工管理が比較的容易であり、下階への水対策を検討する必要がある。
2.	ブラシ掛け	清掃、脆弱層の除去	デッキブラシあるいは、ワイヤブラシによりコンクリート表面を擦り、塵埃や脆弱層を除去する。	作業は簡単だが、施工管理が曖昧となりやすい。水洗いを併用する。
3.	専用シートによる凹凸処理	コンクリート表面への凹凸付与	ポリエチレンフィルム製専用シートを型枠に取り付け、コンクリート表面に凹凸を付与し、それがセメントモルタルの塗りつけ時に食い込むことにより、はく離を防止する。	専用シートの廃材が発生するため、その処理対策を講じておく必要がある。
4.	サンダー掛け	目粗し、脆弱層の除去	ディスクグラインダーによって、コンクリート表面の目粗しを行い、表面に付着した粉塵は水洗いにより除去する。	特別な工具を必要とせず、作業は複雑であり、埃や音の発生がある。施工のばらつきが少ないが、見本などを作製し管理することが重要である。

問題 18 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. セルフレベリングとは、流しこむだけで平坦になる性質。
2. グラウトとは、ひび割部にセメントペースト等の結合材を注入すること。
3. スラリーとは、液体中に細かい固体粒子が濃厚に混合され、かつ安定の状態にあるもの。
4. レイタンスとは、セメントモルタルなどの水硬性材料による塗り層が硬化し、強度を増す前に急速に乾燥してしまうこと。

問題 19 施工管理における三大管理とその関連性に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 工程と原価の関係は、施工速度を上げると単位時間当たりの出来高が増え原価は安くなる。
2. 工程と原価の関係で、施工速度を上げ過ぎると突貫作業となり、逆に原価は高くなる。
3. 原価と品質の関係は、一般的に品質を良くすると原価は低くなるが、品質を下げる
と原価は高くなる。
4. 品質と工程の関係は、品質の良いものは一般に時間がかかり施工速度は遅くなるが、
品質を下げる
と施工速度は上がる。

問題 20 建設副産物に関して、最も不適当なものはどれか。

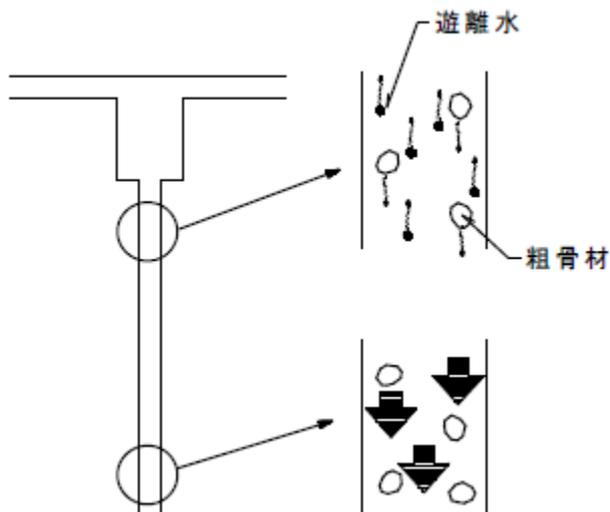
1. 資材有効利用促進法に規定された指定副産物はアスファルト・コンクリート塊、コ
ンクリート塊、建設発生木材、建設発生土（土砂）である。
2. 建設リサイクル法に規定された特定建設資材廃棄物はアスファルト・コンクリート
塊、コンクリート塊、建設発生木材である。
3. 建設副産物対策は事前調査結果を基に、発生の抑制、再利用の促進、適正処分の徹
底を基本原則とする。
4. 建設副産物とは建設工事に伴い副次的に得られた物品であり、工事現場から排出さ
れる再利用の可能性のあるものである。

問題 21 建設資材の発注プロセスに関して、最も不適当なものはどれか。

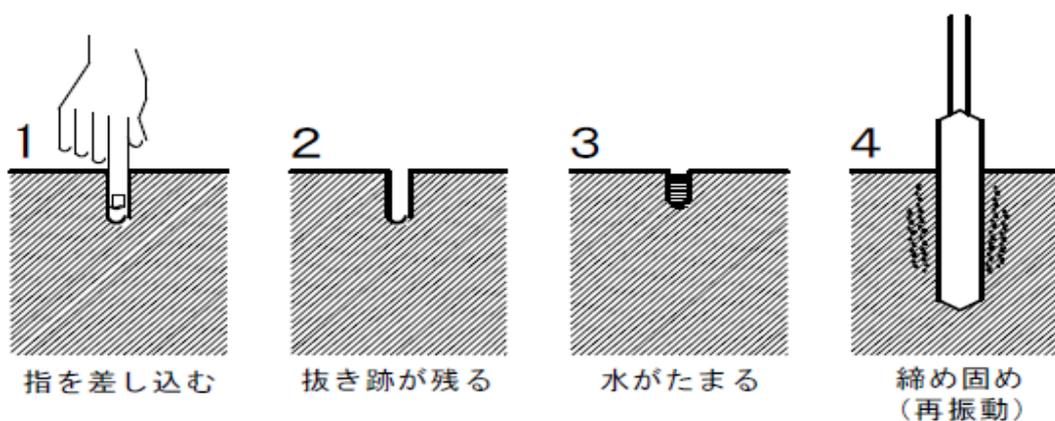
1. 一般材の納入依頼について、搬入費用をできるだけ軽減するために、可能な限り一度
にまとめて納入するように依頼する。
2. 製作材の発注プロセスについて、購入手続きから納入までの時間を要するものが多く、
全体工程に大きく影響を及ぼすものがある。
3. 製作材の製作打合せに際しては、仕様書及び設計図記載事項を理解するとともに、
客先の意向や現場での施工上の納まりを十分に考慮し、それらの情報を正確にメーカ
ーに伝える必要がある。
4. 製作材においては、資材が製作図通り製作されているかどうかを現場搬入前に工場立
会検査で確認する必要がある。

問題 2 2 下図のようなコンクリートの特徴に関して、最も不適当なものは どれか。

1. 図一1の上部のようにコンクリート打設直後から遊離水とよばれる硬化に不要な水がコンクリート中を上昇することをブリージング現象と言う。
2. 図一2のように、まだ固まらないコンクリートに指を差し込むと遊離水がたまる。
3. 図一2のように、硬化後（打設後15～30分後）再振動をかけると不要な水や空気を強制的に追い出すことができ、効率の良い締固めができる。
4. 遊離水はコンクリートが硬化する前に全て上昇し、コンクリート中には残らない。



図一1



図一2

問題 2 3 わが国の建設業における労働災害の現状について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 労働災害とは、労働者が就業中や通勤途上などで負傷、疾病、障害、死亡する災害である。
2. 近年の労働災害減少の最大の要因は、工事量の減少である。
3. 建設業の安全対策が難しい理由の一つは、作業内容が日々変化するため慣れによる安全効果が期待しにくいことが挙げられる。
4. 建設業は、他産業と比べて労働災害発生率が高い産業である。

問題 2 4 各種労働災害防止について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 高さが 2m 以上の所での作業を行う場合、基本的には作業床を設置する。
2. 解体工事は短期間で終わるので、石綿による健康障害防止対策を考える必要はない。
3. リフォーム工事は、小規模工事が多いため必要な安全設備が設置できないことが懸念される。
4. 熱中症予防対策として、WBGT（暑さ指数）を測定することは有効である。

問題 2 5 法で定められた建設現場における安全管理について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 複数業者が混在する 60 人の建設現場では、安全管理のために元請業者は統括安全衛生責任者を選任する必要がある。
2. 作業主任者を選任しなければならない作業の中に、型枠支保工の解体は含まれる。
3. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努めなければならない。
4. 事業者は、作業員を雇い入れた時、作業内容を説明すれば特に安全衛生教育を行う必要はない。